

第2次南砺市総合計画「南砺まちづくりビジョン」（素案）について

○趣 旨

現行の南砺市総合計画は、本年が計画期間最終年度であることから、昨年度と今年度の2か年で第2次南砺市総合計画の策定に取り組んできた。

地域での検討会議等から出された意見を踏まえ、市民会議において取りまとめられた将来像や目指すべき10年後のまち像の提案を基に作成した素案について、このたび、総合計画審議会から答申があった。

今後、2度目のパブリックコメント及び地域審議会での意見を盛り込んだ最終案を取りまとめ、本年3月定例会へ上程したい。

○キャッチフレーズ

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

○目指す将来像 別添参照

○計 画 期 間 令和2年4月から令和12年3月

※プランは、前期5年とし、社会情勢等の変化により見直す。

○第2次総合計画の計画期間（10年間）で目指すべき姿

令和2年度からの10年間は、目指す将来像に向かい市民一丸となって、覚悟をもって取り組まなければならない極めて大切な時期である。その中においては、

- ・自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動するまちを目指すこと
- ・「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊かさや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を目指すこと
- ・次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現すること

として、次のまち像を掲げて南砺市総力で取り組む。

① 未来に希望がもてるまち

主な分野：教育、成長、学び、子育て、結婚など

② 多様な幸せを実感できるまち

主な分野：地域包括ケア、地域活動、多様性の容認、ジェンダーギャップの解消など

③ 心豊かな暮らしができるまち

主な分野：ライフスタイル、交通、しごと、働き方、移住・定住など

④ 皆で考えともに行動するまち

主な分野：まちづくり、情報公開・発信、誇りなど

○第2次総合計画の特徴

・まちづくりの主体である市民が、自分ごととして素案の策定に参画

市では、まちづくりの主体は市民であることを念頭に置き、市民の意見を聴くとともに、将来像や目指すべきまちの姿の検討にも、より多くの市民の参画につながるよう取り組んできた。参画された市民は、自分が将来住んでいたい南砺市の姿の明文化やその実現に向かってやるべきことの提案など、自分ごととして素案の作成に関わってもらった。

そして、市民参加の会議では、毎回、予定時間を超えるほどの活発な議論が交わされ、「自分なら、何が出来るか」を念頭におき、積極的で前向きな提案や貴重な意見を基に、素案の作成や検討などを行ってきた。

参画された市民の数	延べ3, 152名
(主なもの)	
・市民・転出者アンケート 2,296名回答	・未来ミーティング 参加者57名
・まちづくり検討会議 委員60名	・南砺まちづくりビジョンフォーラム
・地域づくり検討会議 委員40名	市民参加者50名
・総合計画市民会議 委員25名	・ローカルサミットNEXT
・総合計画審議会 委員23名	市民参加者延べ約500名
・地域審議会 委員101名	

・将来像への達成に向けて戦略的な総合計画の策定

平成23年度の地方自治法改正により、基本構想の策定義務の規定は廃止されたが、現在でも、総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画といった3層構造で、全ての分野を漏れなく盛り込んだ（いわゆる、総花的）形式のものが主流である。

同様の形式である現行の本市総合計画では、目的と手段の結びつきが薄く、PDCAサイクルによる改善への柔軟な対応が難しいことを課題と考えてきた。

そこで、第2次計画では、「まちづくりビジョン」「まちづくりプラン」の2層で構成し、将来像とやるべきこととの関係をわかりやすく整理するとともに、県内初、全国でもあまり例のない、将来像の達成に向けて要点を絞り込んだ「戦略型」の総合計画とした。

合わせて、国の総合戦略との整合性を考慮して、計画全体を地方創生につながるプロジェクトに分類して組み上げており、将来像の実現に向けて取り組む。

・社会情勢などへ対応するため、全分野の取組に対し横断的な4つの観点を設定

・SDGs達成に向けた取組

SDGs未来都市計画と一体となり、多様な主体との連携を強化して施策に取り組む。

・未来技術（Society5.0）の活用

未来技術の活用により、地域の利便性向上や効率的な行政運営に対応する。

・地域づくりへの新たな取組

小規模多機能自治に取り組む地域と持続可能な社会の実現に向けて、一層の連携を図る。

・地域にある空き公共施設や空き家といったストック資産の活用

地域にあるストック資産を市民の取組や行政の施策で有効に活用する。

将来像と目指すべきまちの姿

1. 将来像

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

田園が湖面のごとくきらめく春、熱い鼓動に包まれる夏、哀愁の調べが彩る実りの秋、一面の雪景色に温もりが感じられる冬と、南砺市では、四季を通じて人と自然が調和し、悠久の時間が流れています。

わたしたちの南砺市には、豊かな自然の恵みをいただき、大自然に感謝する心や相手を思いやる「お互い様」の気質といった独自の精神がずっと息づいています。世界が認める合掌造り集落をはじめ、散居景観や伝統芸能、祭、食、ものづくり産業など、かけがえのない財産が数多く育まれています。

また、南砺市で暮らす人々は、奥ゆかしく、温かみがあり、忍耐強く、何事にも意欲に富んでおり、ここに生きる人そのものが、未来へとつないでいかなければならない私たちのかけがえのない財産です。

その一方で、少子高齢化や社会環境の変化など、南砺市を取り巻く様々なことが変わりつつあるなか、これらの財産を後世へと継承していくためには、市民一人ひとりの強い思いとたゆまぬ努力により、積極的に守り育てていくことが不可欠です。特に、自然との共生や環境への意識が高まるなかで、人と人、人と自然の関係を見つめ直し、地域資源を最大限に活用した循環型社会を構築する重要性は増すばかりです。

さらに、情報通信や人工知能（AI）などの技術進歩により、働き方や生き方、価値観などは大きく変わろうとしています。今の暮らしをより快適にしたい、場所を選ばず仕事がしたい、住むところを自分のスタイルで選びたいといった、人それぞれが求める多様な幸せのカタチを実現できる社会を築いていかなければなりません。

このような社会の流れのなかで本市が目指すのは、ここに暮らす人が多様な価値観を互いに認め合い、それぞれが幸せを感じ、「生まれてきてよかった」「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」と思えるまちであり、同時に市外の人に「共に育ちたい」「住みたい」「つながりたい」場所として選ばれるまちです。

これからの10年間は、目指す将来像に向かい市民一丸となって、覚悟をもって取り組まなければならない極めて大切な時期です。自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことが必要です。「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊さや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。

2. 目指すべきまちの姿

未来に希望がもてるまち

子どもは家族にとって大切な宝であり、子どもが夢や希望をもち、その実現に向かって成長していく姿は、家族だけでなく地域にとっても大きな希望となります。子どもたちへの教育や子育て環境の充実を図り、地域全体で子どもたちの育みを支える体制を整えるとともに、南砺で家庭を持ちたい、子育てしたいと思う若者の希望に応え、子どもたちが南砺に生まれてよかったと思える、希望に満ちあふれた地域づくりを進めます。

多様な幸せを実感できるまち

地域に愛着をもち、互いに尊重し合い、安心とやすらぎを感じて生活していくことができ、「いつまでも、南砺で暮らしていきたい」と一人でも多くの人に思ってもらえるよう、福祉や医療の充実を図ります。また、年齢や性別、国籍をはじめ、多様な生き方や考え方を受け入れ、個性を認め合い、幸福感が得られる社会の構築を図り、自身の人生を振り返ったときに「このまちに住んでいてよかった」と思えるような地域づくりを進めます。

心豊かな暮らしができるまち

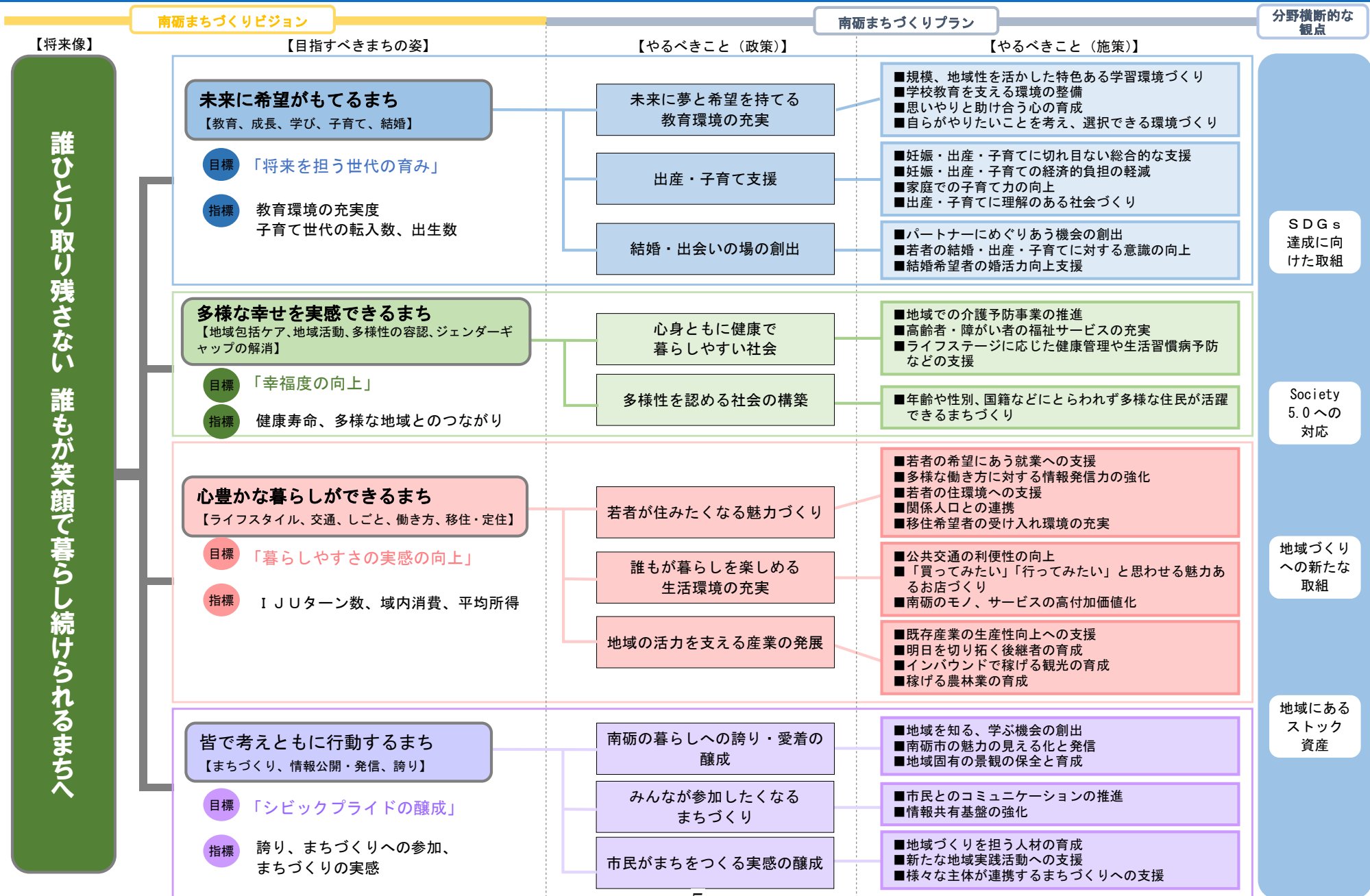
市民が、豊かな自然や人のつながりのなかで南砺の暮らしを楽しみ、また、若者が南砺に住みたくなるような新たな魅力づくりを進めます。あわせて、ワーク・ライフ・バランスの実現と多様な働き方への支援を図り、都市基盤の充実をはじめ、地域活力を支える産業の振興や後継者の育成に取り組みます。また、市民が暮らしやすさを実感し、市外で暮らす方が南砺に興味をもち、移住や関係人口の増加につながる取組を進めます。

皆で考えともに行動するまち

まちづくりは、そこに暮らす市民一人ひとりの地域を想う心や、相互の支え合いによって取り組まれています。そのため、地域への愛着や誇りの醸成、地域づくりを担う人材の育成を図るとともに、情報共有やコミュニケーションの充実、参加したくなるまちづくり方策を、皆で考えともに行動することで、市民と行政の協働による開かれたまちづくりを推進します。

施策の体系

1. 施策の体系



誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

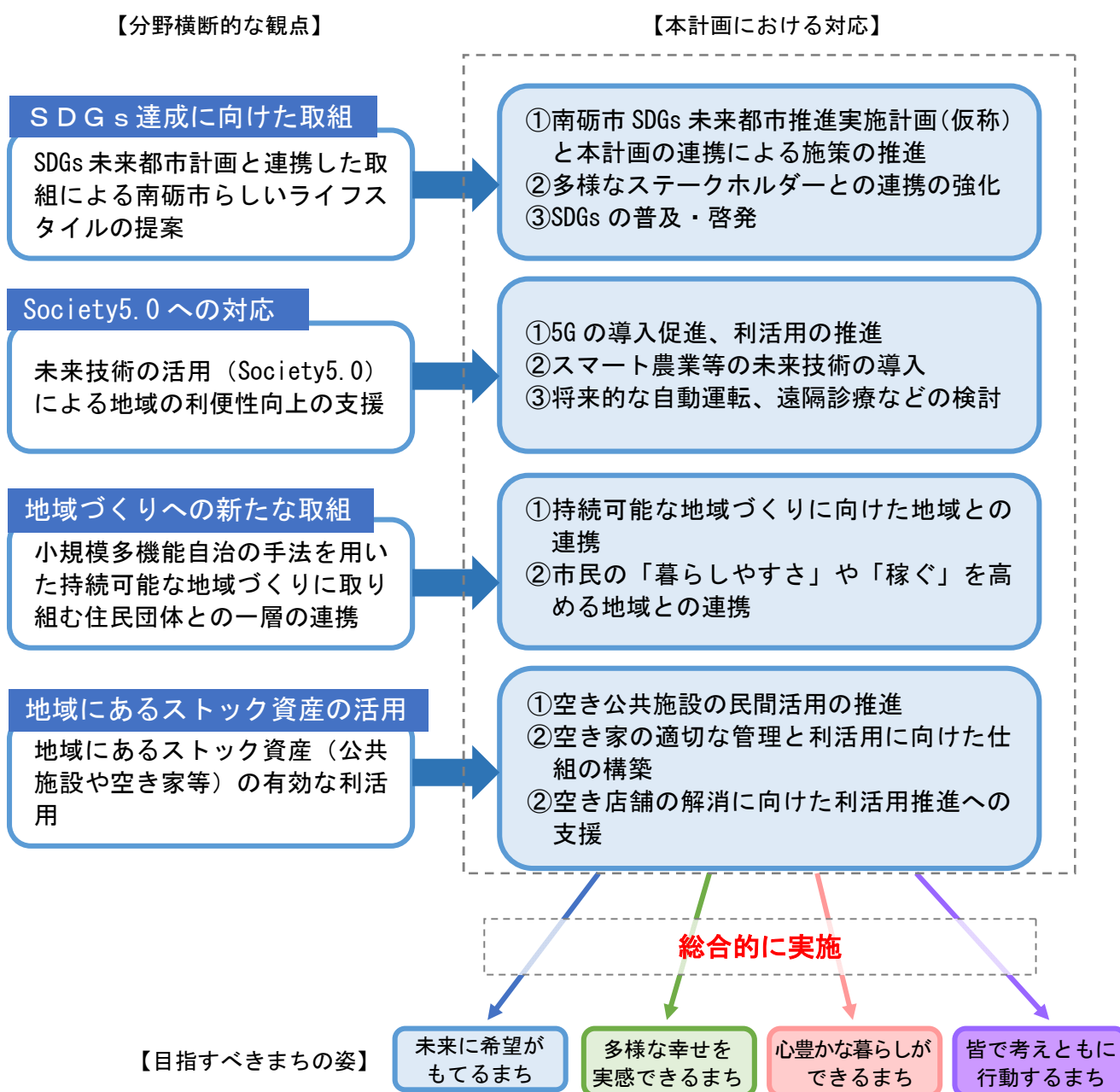
2. 時代の潮流に即した全分野へ横断的に関わる4つの観点

(1) 分野横断的な4つの観点の考え方

時代の潮流におけるSDGsやSociety5.0、新たな地域づくりや地域にあるストック資産などについては、ビジョンを実現するために非常に重要な観点です。

これら4つの観点から導かれる対応策を、総合的に各施策に反映していくことで、4つの目指すべきまちの姿の実現を図っていくこととします。

(2) 4つの観点における対応





令和2年1月20日

南砺市長 田中 幹夫 殿

南砺市総合計画審議会
会長 中村 和之

「第2次南砺市総合計画（素案）」について（答申）

令和元年6月21日付け地創推第228号で諮問のありました第2次南砺市総合計画の策定については、市の将来像とそのための進むべき方向性を示すまちづくりの指針として概ね適正であると認め、下記の意見を付して答申します。

なお、市民の関心が高い具体的な施策の実施については、まちづくりプラン及び個別具体的な計画に基づき進められることから、本計画が大人から子どもまで広く理解されるよう、個別計画との整合性を明確にし、将来像の実現に向け着実に取り組まれるよう要望するとともに、審議の過程において、各委員から提起された意見については、今後のまちづくりに十分に反映するよう求めます。

記

1. 将来の南砺を担う子どもたちにとってわかりやすい計画になるよう留意されるとともに、子どもたちと南砺の未来を一緒に考える取組を進められたい。
2. 持続可能な地域社会の実現に向け、小規模多機能自治組織による地域づくりは始まったところであり、地域と行政との適切な役割分担に努められるとともに、情報提供や連携を密にすることで、地域の課題解決に繋がるよう進められたい。
3. 「防災」を始めとして、市が通常やるべき事務事業は個別計画に基づき進めることとしているが、特に市民の安全・安心を守るよう、防災体制の充実と災害に強いまちづくりを確実に進められたい。
4. 本計画を着実に進めると同時に、市民に市政を丁寧にわかりやすく伝えることにより、市民が積極的に市政に参加できるように配慮されたい。
5. 将来像が広く市民に浸透するよう努められるとともに、市民と一緒に「一流の田舎」を目指すことへの機運の醸成に取り組まれたい。

